

富山高等専門学校

# 同窓会 会報



National Institute of Technology,  
Toyama Alumni Association

## Vol.3

2023年3月発行

編集・発行 富山高専同窓会  
同窓会HP/[nc-toyama-dousoukai.jp](http://nc-toyama-dousoukai.jp)

上 「アイデア対決・全国高等専門学校  
ロボットコンテスト2022」  
地区大会 (2022年10月23日(日) 実施@三重県鈴鹿市)  
ロボット名『SKY×FAMILY (スカイファミリー)』

下 北斗祭 5月22日, 23日射水キャンパスにて開催



挨拶 | 定期総会 | 退職教員からのメッセージ  
近況報告 | 新理事紹介 | 同窓会事務局からのお知らせ

メールアドレスの登録をお願いします  
詳しくは同窓会HP「お知らせ」をご参照下さい。

## 会長挨拶

### これからの同窓会

富山高等専門学校同窓会長

I17 稲積 佐門



同窓会会員の皆様、こんにちは。皆様いかがお過ごしでしょうか。

本年度も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で思ったような同窓会活動を行うことができませんでしたが、ようやくこの出口も見えてきました。新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けについて、政府では今年5月8日に、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を決めました。このことで、行動制限などが緩和され少しずつ日常生活が取り戻されることが期待されます。一方で、昨年からのロシアによるウクライナ侵攻の影響で日常生活品などにおける物価高騰が続いております。当初、この事態がこんなにも長く続くと誰が想像したでしょうか。そういった点では、当たり前前の日常生活を取り戻すにはまだまだ時間がかかりそうな気がいたします。

さて、話は変わりますが昨年11月に東京にて開催された高専制度創設60周年記念式典、シンポジウム、祝賀会へ出席して参りました。当日は、素晴らしい式典や表彰、研究成果の発表などが行われ日本のみならず、海外からの出席者も参加されておりました。また、高専卒業生で活躍されている方々の紹介やパネルディスカッションなどもあり、多くの刺激を受けました。今、世の中で求められているような人材の育成に60年前から取り組んでいて、ようやく時代が高専に追いついてきたのではないかと、そんな気にさえなりました。また、卒業生の

中には若い起業家も多く、中には誰もが聞いたことのあるであろう会社の名前もあり、同じ高専の卒業生ということで勝手に親近感が湧いていました。

祝賀会の場では、他の高専の校長先生方と意見交換をさせて頂く機会がありました。そのなかで、他の高専の同窓会の状況なども教えていただきましたが、統合された高専、いわゆるスーパー高専と言われる学校が他にも仙台、香川、熊本とあるなかで、統合後に新たな同窓会を立ち上げたのは富山だけだと言うことでした。我々富山高専同窓会が他のスーパー高専に先駆けた取り組みを進めることで新たな同窓会としてのモデルとなっていくことは間違いないと思います。

新年度からは、人々の交流が盛んになってくることと思いますが、同窓会活動も徐々に活発化させていかなければいけないと思っております。また、我々の取り組みが他の同窓会からも注目されていることも念頭におきながら同窓会運営に取り組んで参ります。そして、同窓会の繋がりというものが高専だけのものではなく全ての高専同窓会と繋がることが可能なのだと言うことを卒業生のみならず在校生にも認識してもらい、同窓会を活用して自分たちの人生の可能性というものを広げる為に役立てれば思っておりますので、これからも皆様のご協力をよろしくお願い致します。

最後に、同窓会会員の皆様のご多幸と健勝を祈念申し上げます。

## 学校長挨拶

### 就任あいさつ

富山高等専門学校校長  
國枝 佳明



富山高等専門学校同窓会の皆さま、令和4年4月1日に校長に就任いたしました國枝佳明と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

着任してまもなく1年が経過するところですが、ようやく富山高専のことが少し解ってきたというところです。副校長をはじめ多くの教職員、学生、保護者そしてOBの皆さまに支えられ、今日に至るといった感じです。

富山高専は2009年に富山工業高専と富山商船高専が統合して新たな歴史を刻み始めたところです。そして2019年に統合後の卒業生を中心とした「富山高専同窓会（以下、「新同窓会）」が発足し、「北斗会」、「ほんごう会」の3同窓会が連携して活動を行っています。これからの社会を担う若い卒業生達にとって、先輩諸氏の豊富な経験と深い見識や多様なネットワークは、有益なものであることは間違いありません。新同窓会は、まだ産声をあげたばかりで、その活動も十分とは言えない状況かと思えます。長い歴史のある北斗会及びほんごう会の皆さまとの、相互の交流を図るとともに更なる連携を強化し、新同窓会が活発に、さらに発展しますよう願っています。

同窓会は同じ学び舎で過ごし、学校を

愛する仲間の気軽なサロンであって欲しいと思っています。同業者が集うこともあり、趣味の仲間が集うこともあり、あるいはまったく関係ない業種も趣味も年齢も異なる者が同窓会というだけで、つながることがあっても良いと思います。

個人的な話になりますが、教え子でミャンマーからの留学生が、卒業後は帰国して母校の先生になるはずでした。しかし、2021年2月の政変のために帰国できなくなり、日本で職を探しているときに同窓会の先輩のお蔭で就職できた、ということがありました。また、フィリピンのマニラに赴任しているとき、毎週のように同窓の先輩・後輩から色々な情報をいただき、ずいぶんと助かりました。

若いうちは忙しくて同窓会など関わってられない、と思いがちであったり、話の合う同期、同級生とのお付き合いが中心となってしまうがちであったり、と同窓会と疎遠になってしまうこともあると思いますが、同窓会のありがたさはジワジワと沁み入ってきます。お時間の許す限り富山高専同窓会に関わっていただきたいと願っています。皆さんが創る皆さんのための同窓会を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和4年度 富山高等専門学校同窓会

# 定期総会

日時

令和4年7月26日(火) 19時00分～

● Microsoft Teams によるリモート

令和4年度 富山高等専門学校同窓会定期総会を、令和4年7月26日(火)19時00分からMicrosoft Teams によるリモートで開催しました。

はじめに稲積同窓会長、来賓の國枝校長より挨拶を頂き、佐瀬副校長より母校近況報告を頂いたあと議事に入りました。予定の審議事項はすべて承認されました。



國枝校長 佐瀬副校長 稲積会長 七軒副会長兼事務局長

令和4年度富山高専同窓会定期総会Web会議の様子

### 次第

1. 開会
2. 会長挨拶 稲積佐門会長
3. 来賓挨拶 國枝佳明校長
4. 母校近況報告 佐瀬直樹副校長
5. 議事

### 審議事項

- (1) 令和3年度事業報告(案)について
- (2) 令和3年度決算報告(案)について
- (3) 令和3年度会計監査報告について
- (4) 役員人事(案)について
- (5) 令和4年度事業計画(案)について
- (6) 令和4年度予算(案)について
- (7) ホームページ管理料(上位プラン)について
- (8) その他
  - ・ ホームページの「問い合わせ」について
  - ・ 3同窓会の名簿の一本化について

## 総会資料(抜粋)

### ○令和3年度 富山高等専門学校同窓会 事業報告

令和3年	4月 2日	入学式への出席(稲積同窓会長)
	4月24日、25日	令和2年度会計監査を実施
	6月 4日	3同窓会長と富山高等専門学校との意見交換会
	6月10日	第1回理事会を開催(Web会議)
	7月	卒業後のキャリア調査の実施
	8月19日	第2回理事会を開催(Web会議)
	9月10日	第1回総会を開催(Web会議)
	9月28日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式後の同窓会への加入説明(水谷理事)
	11月 5日	富山高等専門学校技術振興会理事会への出席(稲積同窓会長)
	11月中旬	富山高等専門学校技術振興会総会への出席(書面決議)(稲積同窓会長)
令和4年	3月 2日	とやまKOSENコラボフォーラム(富山高等専門学校技術振興会主催)への出席(稲積同窓会長)
	3月 8日	新入生入学説明会における同窓会への加入説明 (水谷理事、井上教務主事・校長補佐)
令和4年	3月10日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明 (七軒同窓会副会長)

令和4年 3月17日 3同窓会長と富山高等専門学校との意見交換会  
令和4年 3月下旬 同窓会会報を発行

## ○役員人事（役員の改選）

理事就任 K金属11 井上 誠  
理事就任 K13 田嶋雄太

※ その他の理事は留任

## ○令和4年度 富山高等専門学校同窓会 事業計画

令和4年 4月 1日 入学式への出席（稲積同窓会長）  
4月14日 3同窓会長の新校長訪問（稲積同窓会長）  
5月 4日、13日 令和3年度会計監査を実施（河村監査、山崎監査）  
6月14日 第1回理事会を開催（Web会議）  
7月26日 第1回総会を開催（Web会議）  
9月27日 商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明（稲積同窓会長）  
11月 富山高等専門学校技術振興会総会への出席（稲積同窓会長）  
令和5年 3月 新入生入学説明会における同窓会への加入説明  
（水谷理事、中島理事）  
3月10日 卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明  
（稲積同窓会長）  
3月下旬 同窓会会報を発行

## ○ホームページ管理料（上位プラン）への移行について

現在のホームページ管理プランにおける利用可能ページ数を上限まで使用しているため、今後新たなページが必要となる場合には、上位プランへ移行する。

## ○ホームページ「問合せ」について

新同窓会ホームページ内の「メールアドレス登録をお願いします」の記事に旧同窓会会員からの書き込みが増えたため、Forms内回答において新旧同窓会会員を振り分け、旧同窓会会員には、旧同窓会ホームページ「問合せ」URLを案内する。

## ○新旧同窓会の名簿の一本化について

新旧同窓会名簿の一本化を進めるためのワーキンググループを立ち上げる。

## 令和5年度 定期総会 審議事項(予定)

### 令和4年度 富山高等専門学校同窓会 事業報告(案)

令和4年 4月 1日	入学式への出席(稲積同窓会長)
4月14日	3同窓会長の新校長訪問(稲積同窓会長)
5月 4日、13日	令和3年度会計監査を実施(河村監査、山崎監査)
6月14日	第1回理事会を開催(Web会議)
7月26日	第1回総会を開催(Web会議)
9月27日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(稲積同窓会長)
11月 4日	富山高等専門学校技術振興会総会への出席(稲積同窓会長)
11月16日	高専制度創設60周年記念式典への出席(稲積同窓会長)
令和5年 3月 8日	新入生入学説明会における同窓会への加入説明(水谷理事、中島理事)
3月10日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(稲積同窓会長)
3月29日	第2回理事会を開催(Web会議)
3月下旬	同窓会会報を発行

### 令和5年度 富山高等専門学校同窓会 事業計画(案)

令和5年 4月 4日	入学式への出席
4月	令和4年度会計監査を実施
開催日未定	第1回理事会を開催(Web会議)
開催日未定	第1回総会を開催(Web会議)
9月26日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式後の同窓会への加入説明
11月	富山高等専門学校技術振興会理事会への出席
令和6年 3月	新入生入学説明会における同窓会への加入説明
3月	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明
3月下旬	同窓会会報を発行



球技大会 10月14日



## 母校近況

令和4年度  
本郷キャンパス学生会会長  
物質化学工学科 4年  
青木 一真

### 脱コロナに向けた学生会活動回復の兆し

今年度は、昨年度よりも新型コロナウイルス感染症の脅威が幾分減少し、少しずつ本来の形に戻すための準備の年となりました。今年度の学生会活動において、例年と大きく変わった点は球技大会を前期と後期の2回開催できたことです。本来は一度しかない球技大会を2回行えるということもあり、1回目は昨年度の反省を生かし、2回目はさらに1回目の問題点を改善することでアクティブな大会開催を目指しました。特に体育局が中心になり感染症対策を徹底しつつも工夫を凝らした企画運営を行う事で、昨年度まで行えなかった競技も取り入れることができ、参加者の笑顔が絶えない行事となりました。その他の学生会活動についても各部局の協力もあり、滞りなく進める事ができていました。

学生会長個人としては、より良い学生会活動を目指して取り組んできたことがあります。まず風通しの良い学生会活動のため、学生の意見を取り入れるための「学生目安箱」の宣伝に力を入れ、例年の倍以上の意見をいただく事ができました。

また、学生会執行部の人材確保と育成にも力を入れました。特に低学年を対象とした学生会活動説明会の開催や特に低学年を対象とした積極的な勧誘活動を行う事で、やる気のある若い人材を多く集めることができました。低学年層が厚くなることで来年度以降の学生会活動にも良い影響を残すことができたと自負しております。

### あいさつ運動を実施しました。

本郷キャンパスでは年に2回学生会行事として「あいさつ運動」を行っています。前期と後期の授業開始日の朝に、学生玄関、C科棟中央出入口、専攻科棟西側駐輪場、図書館横、管理棟横自転車小屋の5箇所です学生会執行部メンバーが立ち、登校してくる学生に「おはようございます」と元気に声をかけます。当日はいつも明るいあいさつが飛び交い、多くの学生が笑顔で登校できています。あいさつをきっかけとして、今後も学生全員で活気に溢れる学校をつくっていききたいと思います。



あいさつ運動 10月3日

## 母校近況

令和4年度  
射水キャンパス学生会長  
商船学科4年  
天明 昂



5月22・23日 北斗祭 4年学年展示



7月7日 カッターレース大会



7月7日 クラス対抗リレー

今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルスが猛威を振るい、感染対策を考慮した上での学生会活動運営を余儀なくされました。今年度行った新たな試みは、コロナ禍における志峰祭の開催です。例年とは異なる環境の中で参加者が楽しめるように、企画局が中心となり準備に取り組みました。当日は規模を縮小し、1日のみの開催となりましたが、参加者の笑顔が絶えない行事になりました。また一部実施できないものもありましたが、その他の学生会活動運営も、部局間で協力しながら全うすることができました。

### 北斗祭

5月22日,23日に射水キャンパスにて北斗祭を行いました。

両日とも天気に恵まれ、学外からも沢山の方に来場いただきました。

各クラスの展示や模擬店、ステージ発表、22日には仙台高専出身のYouTuber、かつーさんに登壇頂くなど、どれも4年ぶりとは思えない大盛況で2日間を終えました。感染対策として各模擬店やブースでのパーティション設置や換気の徹底、各所に消毒液の設置等を行いました。

### カッターレース大会

7月7日に本校臨海実習場及び射水キャンパスにてカッターレース大会を行いました。

例年では臨海実習場のみでの開催でしたが、今年度は密集を避けるため2会場同時での開催となりました。

カッターレース部門に加え新しくデコレーション部門、体育大会部門の2部門の設置や、学生による実況付きのライブ配信等、カッターレースの枠にとられない新たな取り組みを行いました。

## 今年度は3年ぶりのカッターレース

## 高専ロボコンの思い出

電気制御システム工学科 浦風 和裕



平成2年に旧富山商船高専の電子制御工学科に助手として着任しました。電子制御工学科は昭和63年の学科改組により新設され、その1期生が3年生となる年で、情報処理の授業や実験実習を担当することから高専での教員生活が始まりました。そして、高専ロボコンもこの電子制御工学科の開設と同時に始まり、第1回と第2回は書類応募で採択されたチームが大会に参加する方式でしたが、第3回は全国の高専から各1チームが代々木体育館で一堂に会し、午前中に予選、午後から決勝という方式で行われました。本校はこの第3回から、機関学科の4年生、電子制御工学科の3年生と2年生による有志のチームで「66-QB(ろくろ首)」というロボットで参加し、決勝に進んでベスト8まで勝ち上がることができました。製作は夏休み中に行われ、名前の由来となるロボットの首が伸びる機構をスムーズに動作させるために、またたくさんの電子部品と配線をはんだ付けした回路基板をうまく動作させるために、技術職員さんの指導のもと実習工場まで夜遅くまで取り組んでいたことが、今でも懐かしく思い出されます。

このようにして私の高専ロボコンとの関りが始まり、平成5年から平成18年まではメカトロ技術研究部によるクラブチームの顧問として、そして平成25年の電子制御工学科の最後の卒業生となる22期生による5年生チームが最後となりました。この間、学生たちの活動を支えていただいた当時の電子制御工学科の先生方や実習工場の技術職員の方々には心より感謝申し上げます。さて、どのチームのどの大会も苦労話や思い出話は尽きないのですが、中でも印象深いのは平成14年の大会で

す。箱を15段積み重ねるとトルネード勝利というルールの「プロジェクトBOX」で全国大会に出場し、試合では負けましたが、国技館でトルネードを披露することに成功してロボコン大賞を受賞しました。表彰式でチームリーダーが大賞旗を掲げて会場を一周した光景は今でも脳裏に焼き付いています。また、この年に高専ロボコンを題材にした映画が制作され、本校チームは主人公チームの敵役ラスボスとして出演を果たし、当時の話題に花を添えてくれました。ちなみに、映画の主人公チームのメンバーは長澤まさみさん、伊藤淳史さん、小栗旬さん、塚本高史さんです。この大賞を受賞した翌年に、電子制御工学科3～9期の卒業生たちが中心となり、後輩たちへの支援や懇親を目的としてメカトロ技術研究部OB会を発足させてくれました。OB会は2年に一度開催され、私にとっては卒業生の活躍ぶりを聞くことができる良い機会となっています。

統合後の平成26年には本郷で卓球部の顧問となり、体育会系のリーダーシップを持った学生さんたちとも関わることができました。この33年間、両キャンパスを通して多くの様々な個性を持った優れた学生さんたちと関わることができたことは教員冥利に尽きると思っています。また、製品開発本部やソリューションセンターの業務を通して本校の卒業生の方々と関わる機会が増え、皆さんの産業界で活躍されているお話を伺いとても誇らしく感じました。これもひとえに卒業生の皆様方の努力の賜物と感謝申し上げるとともに、益々のご活躍とご健勝を祈念いたします。そして、今後も本校が優秀な人材を輩出する教育機関として発展することを期待しています。



メカトロ技術研究部OB会 設立総会



国技館でのトルネード披露

## タイトル：感謝で一杯！

物質化学工学科 川淵 浩之



昭和55年3月(1980年)富山工業高等専門学校工業化学科を卒業後、大学工学部3年次編入～同大学院修了、富山県内製薬会社3年勤務後、昭和62年4月(1987年)母校富山高専に赴任して36年(学生時代も含めると41年)。いつの間にか定年を迎える年になっていました。あつという間でした。

教職員、在籍学生および卒業生の皆様のおかげでこの日を迎えることができたものと深く感謝申し上げます。特に、私の高専4、5年の担任であった故関場鐵也先生には、学生時代のみならず高専採用時、そして結婚式媒酌人と公私にわたって大変お世話になりました。感謝の言葉しかありません。

確かにあつという間でしたが、たくさんある思い出の中から書かせてください。

赴任以来サッカー部顧問を仰せつかり、部員には何度も感動させていただきました(全国高専大会12回出場し3位2回、北信越高専大会優勝11回)。特に思い出深いのは、第20回全国高専大会、当時これまで全国優勝9回の鹿児島高専を鹿児島主管大会2回戦で1-0で勝った試合。前半の虎の子の1を守り切ってくれました。当時主将5年生の下方一郎君が、現地での練習中に捻挫。1、2回戦試合当日朝、足首に痛み止め注射を打って開始10分間だけプレーし、チームに勇気と活力を与えてくれました。1回戦は小山高専相手にPK戦の末、薄氷を履む勝利。当時非常勤講師(体育)でサッカー部をご指導していただいた、故石倉信男先生に深く感謝申し上げます。

校務として、1～2年担任(1回)、3年担任(2回)、4～5年担任(3回)、また、学生全体(学生

会、学生行事、部活動など)を見守る学生主事を5年間させていただきました。その中で、無限の可能性を持った学生達が、成長して行く現場に立ち会う難しさの反面、やはり感動の場面や涙が出るくらい嬉しい場面も随分ありました。学生に何かを教えることより、学生から教えられることの方が多くありました。全て私の財産となっています。

私のように高専に長く居ると、親子・兄弟姉妹が高専卒の場合も結構あり(実は私の娘も物質工学科卒)、保護者面談でも保護者としてお会いすることも楽しみの一つでした。また、多くの卒業生と連絡を取り合い、(時にはお酒を交えて)お話を聞かせてもらっています。本当に皆さん立派になっています。卒業生の口利きで就職や再就職にこぎつけた件も数多くあります。ここ3年はコロナ禍で集まることも難しかったのですが、収まり次第再開したいと密かに思っています。お声を掛けていただければ有難いです。

また最近、身体が動く内に海外旅行をしたいと思い、ラジオ講座を聴いてボケ防止に努めています。あきらめることが失敗につながり、成功するまでやり続けることが成功への秘訣らしいので、今後もチャレンジ精神を忘れずマイペースで進みたいと思っています。

最後になりましたが、皆様からのご指導、ご協力のおかげでたくさんの経験をさせていただき、本当に感謝の言葉しかありません。ありがとうございます。

そして、忘れてならないのは、家族のみんなにも感謝しています。

## ありがとうございました

商船学科 笹谷 敬二



卒業生の皆様、元気でお過ごしのことと思います。平成18年初夏に河合雅司先生から島木先生が定年になられるので来ないか、と声をかけていただき、平成19年に商船学科の教員として着任し16年間勤務させていただきました。それ以前の昭和62年、63年の2年間、旧運輸省航海訓練所から派遣で富山商船高等専門学校航海学科助手として出向してきておりました。航海訓練所勤務時、昭和5年地方商船学校練習帆船として建造された帆船 日本丸の最終航海(昭和59年)と日本丸(2世)の処女航海に一番若い航海士として勤務いたしました。OBの方はご存知だと思いますが、日本丸 海王丸は戦前、本校を含めて地方に11校あった地方商船学校の練習船として建造され戦前、戦中は地方商船学校の学生の乗船実習訓練を担った船です。最終航海時、ホノルル出港後、炎天下の南太平洋上で建造以来の航海日誌すべてを甲板に並べ虫干した際に、昭和17年6月から終戦の月まで航海日誌の記事がすべて英語から日本語に切り替わって書かれ、当時の時代の厳しさと実習訓練航海の過酷さを知ることができました。また日本丸(2世)処女航海(昭和60年冬の遠洋航海)では、冬の北太平洋上で1日の帆走距離がLog300マイルOG286マイル(5日間(118時間27分 含時刻改正)OG1245マイル)を記録し、当時の帆船の帆走距離の世界記録を樹立、我が国造船技術の力量と乗り組んだ高専実習生86名(内 富山商船19名)の士気の高さを世界に示す航海に参加できたことは良い思い出になっ

ております。

平成19年に本校に着任し、以前出向してきた時にくらべて女子学生の多さとスカートの裾の短さにびっくり、同世代の女子を子供に持つ父親としても、昔のやんちゃな男子校の商船学校ではなくなったな、これも時代か、というのが第一印象でした。着任後、商船学科3年生の担任として学生達に望んだことはまずは遅刻をしないこと、無断欠席をしないこと、学業にきちんと取り組むこと、この3点だったのですが、なかなか結果がでず、学生主事から学生ともども懲戒を受けること多々ありました。それでも就職活動に入った5年生には川崎汽船(株)、日本郵船(株)の機関長のご経験のある石井秋吉先生、齊藤正先生と3人で面接練習を幾度となく行い、景気後退の中にあってもそれなりの企業様に就職していただくことができたのではないかと思います。その時の学生さんも、今はそれぞれの勤め先で若手の長として活躍され、本校に求人に来ていただく方もおり、教員としての喜びを感じることも多いこのごろでした。明治31年に私立の乙種海員養成所として産声を上げ、それこそ新湊の町の方々の町税により明治39年新湊町立甲種商船学校として創校以来110余年、第2次世界大戦では卒業生の多くが戦没し創立40周年記念(昭和21年)が戦没者慰霊の式典であったという歴史の影を刻む本校が、世界環境が激変する今の時代にあっても平和な海に夢多き若者を輩出する学校であってほしいと願っています。みなさん、ありがとうございました。



旧 文部省航海練習所(戦前)地方商船学校練習帆船として建造された 帆船 日本丸 最終航海(昭和59年7月)  
撮影 笹谷 敬二



北太平洋、濃霧の中を帆走する 帆船 海王丸(昭和61年6月)  
撮影 笹谷 敬二  
(練習船 銀河丸、世界一周航海途次 高専実習生乗船 より撮影)

# 近況報告

卒業学科の「略称」と「期」については同窓会HPを参照ください。



## 123 山森 (旧姓 中沖) 夏葉

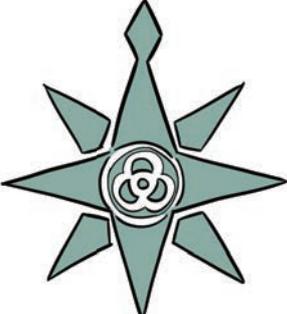
家族三人で海老江浜公園を散歩 ▶

**近況報告**

みなさんこんにちは、  
2012年に情報工学科を  
卒業した山森です。

このマンガは  
この流れで  
よんでね!

縁あり寄稿の打診をいただき、  
せっかくなのでまるまるマンガで  
描いてみることにしました



まだ富山商船と呼ばれていた頃に  
在籍していました

**情報工学科に進学した理由は…**

はぱーん

当時は  
Vista

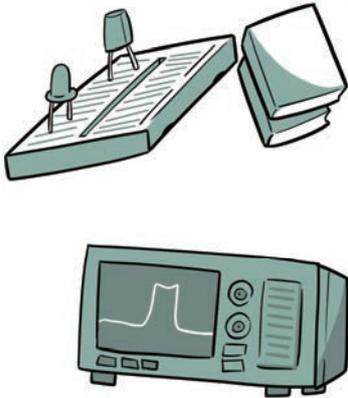
自分のPCが  
欲しかったから!

2000年代後半はまだガラケーが  
中心でインターネットは親のPCで  
やる時代…

もうやめたー!!

ゲームの攻略サイトや  
イラストを漁るのも一苦勞でした

入学してみたら  
数学電気数学電気数学  
といった感じで



常に課題に追われて  
いたような気がします

でもライトレースカーは  
楽しかったです。



もう終売になったみたいだけど  
当時はLEGOマインドストームを  
使っていました！

友達にも恵まれ  
楽しい5年間を過ごし



リーマンショック後で  
求人が少なかったのですが  
高専ブランドのおかげか  
それほど沢山受けずに決まりました



OB・OGのみなさんに  
感謝ですね…！

入社後はプロバイダの  
部門に入り、黒い画面と戯れ  
サーバやネットワークの  
セットアップをしていました



← AM 4:00に  
作業終わり  
出社時刻まで  
仮眠

深夜にサーバが止まり  
遠隔で操作もできなくなり  
酩酊状態でサーバ室で  
復旧作業したことも



そして気づく

私…  
プログラム全然  
書いてない!



← 赤い牛

IT企業＝プログラマだと  
思っていたので衝撃でした

自分はプログラマでは  
なければ何なのか…?



プログラムを動かすには  
パソコンやサーバが必要ですし  
それらをつなぐネットワークもあります。

アプリ

ミドルウェア

OS

サーバ

ネット  
ワーク

でも募集はほとんど  
「システムエンジニア」ですよ。

システムエンジニア  
/通信/ネットワーク構築

年収475～  
完全週休2日制



次の  
手順は…

サーバ  
センターで  
作業中



## 「富山食の王国大使ふふふ」の活動について

### 国6 井川 由莉子

みなさん、こんにちは。2020年に国際ビジネス学科を卒業した井川です。

私は卒業後、県内の企業に就職し、現在営業の仕事をしています。

平日は仕事で忙しく、家に帰るとご飯を食べてお風呂に入ってすぐに寝るという繰り返しの日々を送っています。しかし、休日は料理教室に行ったり、ドライブをしたりなど自分の趣味を楽しんでいます。

そんな平凡な生活を過ごしていた私ですが、昨年「富山食の王国大使ふふふ」になりました。そもそも「富山食の王国大使ふふふ」とは？と思われるでしょう。

「富山食の王国大使ふふふ」とは、富山の新しいお米「富富富」をはじめ、「食のとやまブランド」のPR活動を行う、富山県在住のPR大使です。

自分の生まれ育った「富山」をもっとたくさ

んの方々に知っていただきたいと思い、私はPR大使として活動をしています。

具体的な活動としては、これまでに、富山市で開催された「越中とやま食の王国秋フェスタ2022」や東京で開催された「実りのフェスティバル」などのイベントで富山の食をPRしてきました。

特に「実りのフェスティバル」では、多くのお客さまに富山のお米「富富富」を知っていただくために、富富富の試食を行いました。たくさんのお客さまに「このお米おいしいね」と言っていただき、笑顔で食べているお客さまの姿を見て、私も自然と笑顔になりました。



富山のお米「富富富」。その名のとおり、食べた人が「ふふふ」と微笑んで、幸せな気持ちになるのだと実感しました。

今後も富山の美味しい食を発信し、一人でも多くの方に、富山の食で幸せな気持ちになって

いただきたいと思います。

また、このPR大使活動の経験をもとに、これからの自分の仕事で、お客さまを笑顔にできる営業活動に努めていきたいです。

## 機2 深山 宏樹

同窓会の皆様、初めまして、機械システム工学科2期生の深山宏樹と申します。

エコデザイン工学科に進学、修了後、社会人となってもう少しで5年がたとうとしております。社会人になってから様々な経験をし、時間経過が早く感じられ、高専で過ごした7年をまだ超えていないことに驚きがあります。

学生時代の自分を振り返ると、水泳の部活動に真剣になるばかりで、普段の勉強はおろそかになりがちでした。そんな私でも業務にあたって高専で得た知識や、考え方、経験が役に立っていると感じることが多く、高専で過ごした7年は文武ともにとっても有意義なものだったと実感しています。

現在の仕事はコンクリート橋梁を作る際に使用される機械の計画業務を担当しております。基本的には、会社で保有している機材を使用した計画を行います。一口に橋梁といっても様々な形状、周辺の条件などがあり、今あるものでは対応できないことが多々あります。そういった場合には新規部材を設計し、現場に合った機材を提供しております。また、実際に現場に行き、計画、設計した機械の組立指導を行う

こともあります。皆様に身近なところだと南砺市にある東海北陸自動車道の2期線目の橋梁の一部に関わりました。

最近ではマダガスカルへ組立指導に行きました。本科の卒業時に一人でギリシャへ旅行に、専攻科生の時にはマレーシアにインターシップに行ったことがあり、海外へ行くことに抵抗はないと思っていました。いざマダガスカルへ行くことが決まった時、マダガスカル印象が、TVで紹介されているようなアフリカの厳しい環境のイメージしかなく不安を覚えました。実際は、舗装された道路があり、首都の町並みはきれいなもので、夏の昼間でも気温は28度程度と、非常の過ごしやすい国でした。マダガスカルの母国語はマダガスカル語、第一外国語はフランス語です。日本語とほんの少しの英語しか扱えない私は、通訳頼りになってしまいました。通訳がないときは身振り、手振り、スケッチ、効果音を使って何とか伝えていました。現地の人と一緒に仕事をして、文化、言語は違えども、人間として大きな違いはないと改めて実感しました。



(左端) 仁木先生 (中左) 深山 (中右) C科 堀田 (右端) E科佐伯

◀ マダガスカル 橋



佐瀬研究室OB会

修了してからも当時の水泳部の顧問だった仁木先生と水泳部の同期で食事をしたり、所属していた佐瀬研究室のOB会の幹事を担当したり、企業研究会で高専にお邪魔したりと、高専の方とお会いする機会に恵まれています。クラスの皆には最近会えていないので、近いうちにクラス会を開いて思い出話や近況報告に花を咲かせればと思います。

## これまでの自分とこれからの自分

### 物6 大田 花織



私は小学生の頃から、白衣を纏って研究する方々の姿に憧れを抱いていました。そんな思いから、早い段階で高レベルな化学実験に取り組める、高専の物質化学工学科に入学しました（2016年4月）。5年間、物理化学・分析化学・無機化学・有機化学・化学工学・生物化学等、多くの実験や授業を通して学びました。また、これらの知識が社会でどのように活かせるのか、インターンシップや工場見学を通して学びました。しかし、志望する進路はなかなか決められずにいました。

4年生の夏休みが明けた頃から、就職を考えている友人たちは、就活を始めていました。しかし、私は就職を考えていなかったこともあり、どこか他人事だと思っていた様に思います。今振り返れば、周りとの熱量に差を感じた時点で、もっと自分の心の声に耳を傾ける時間をとるべきだったのだと思います。

5年生になると、私は大学への3年次編入を決意していました。幼い頃から憧れていた研究員の道に近づくためです。しかし受験した大学から合格通知が届くことはなく、それにも関わらずショックを受ける事もありませんでした。家族や友人、先生方からのエールを裏切ったような気持ちになり、自分を見失いそうにもなりました。この経験から、私は「幼い頃からの憧れ」という言葉に甘え、自分の人生について真

剣に考えていなかったことに気づかされました。

5年生の夏休みが明けた頃には、残り僅かとなった進学先や就職先を目の前に再び悩んでいました。そんな私に、1つの選択肢が与えられました。専攻科進学という選択肢です。迷いを断ち切り入試に臨んだ結果、合格をいただく事が出来ました。

専攻科で過ごしたこの2年は間違いなく私の人生に大きな影響を与えました。高専が望む学生像とは異なっていたかもしれませんが、こんな私を専攻科でも熱心にご指導して下さった先生方には感謝しかありません。私たちには小学校入学時から常に「先生」が身近に存在してくれています。様々なことを選択する際、私は「先生」の影響やサポートを受けることが多々ありました。先生方にしていただけただけのように、今度は私が子供たちの未来を照らしてあげられる存在になりたい、この思いから大学院進学を決意し、春からは大学院で教育を学ぶことになりました。この7年間、お世話になった先生方への恩返しを胸に、数年後この高専に生徒を送り出す立場になっていることを想像して、この原稿を締めくくらせていただきます。本当にありがとうございました。

K13 田嶋 雄太



## 着任のご挨拶

2022年4月より本校国際ビジネス学科の教員として着任しました、田嶋雄太です。私は、2013年3月に本校を卒業後、名古屋大学へ進学し、大学卒業後は人材広告会社の営業職として6年間勤めました。その後、学生時代にお世話になった恩師よりご縁をいただき、今年度より教員として母校での新しいキャリアをスタートしたところです。

本科では「商学概論」や「マーケティング論」といった商学分野の科目を担当します。

これらの授業においては、営業職として働いた中で培った実務経験を活かし、働く現場のリアルな部分に触れられるような、より実践的な学習体験を提供することを目的としています。それを達成できてこそ、私が本科の教員としていただける価値だと感じています。

実は、民間企業で働く以前より、教職への強い関心と憧れを抱いていました。それは学生時代から口にしてきたことで、そのおかげで此度のご縁をいただけたと言っても過言ではありません。しかし、本校卒業後すぐに教職に就けなかったのは「自分自身が社会の中に身を投じたことがないまま、学校という空間を出ずに教員になると、これから社会に巣立っていく学生に適切な教育を施せるのだろうか」という葛藤があったからです。特に自分は、教職にしか目が向いていなかったあまりに、世間知らず社会知らずになっているという懸念がありました。それならばと、土壇場で進路の舵取りを変更し全く未知だった民間企業に飛び込んでみたのです。そして、その決断は功を奏しました。ビジネスの最前線で用いられる知見や手法、戦略にじかに触れ、また「顧客（相手）のニーズを追求すること」の大切さを学んだことで、自分が教員として伝えたいこと、学んでほしいことの枠組みが構築されました。そうして学生時代抱えていた葛藤が晴れると同時に、再び教職に就くチャンスをいただけたのです。



「大好きな母校で、憧れの教員になる」というぜいたくな夢を叶えさせていただいたので、次に私がしたいことは「次代に紡ぐこと」です。私がこれまで経験して得られたものは、もはや夢を叶えるために消費するものではありません。次の世代の、未来ある子供や地域のために紡ぎ、還元していくためのものです。

末尾となりますが、富山高等専門学校が、迫りくる新しい時代の荒波を超え、まだ見ぬ新世界へと渡っていけるよう、微力ながらその動力になればと思います。新米教師を、どうぞよろしくお願いたします。

香川県小豆島にて  
(この時はまだ自分が教師になれるとは思いませんでした。)

# 同窓会事務局からのお知らせ

## 会員の皆様へ 名簿統一化WGの活動報告

本年度6月に開催された理事会および定期総会において、本校にある3つの同窓会（富山高専同窓会、ほんごう会、北斗会）の有機的な連携を目的として、それぞれの同窓会名簿を統一して一元管理することが提案され、「名簿統一化ワーキング（WG）」を立ち上げて検討することとなった。WGは令和4年9月6日（第1回）、10月12日（第2回）、11月15日（第3回）、12月14日（第4回）、令和5年2月27日（第5回）の5回にわたって開催され、名簿統一管理の方針の検討と、名簿管理会社選定の参考とするため、12月13・14日にWGで選考した3社からそれぞれ名簿管理システムのプレゼンを聴視し検討した。

名簿統一管理の主な方針としては、

1. 冊子体での名簿の発行、頒布は行わない
2. 名簿の閲覧はWeb上でIDにより管理された同窓会員（在校生含む）・教職員に限定し、一括ダウンロードが出来ないものとする。
3. 名簿の情報は本人で追記・消去・修正できるものとし、項目毎に公開・非公開が選択出来るものとする。
4. 電子メール以外にLINE等のソーシャルメディアが活用出来ることが望ましい。

等が挙げられた。

今後は名簿統一化WGの検討結果を理事会および令和5年度の定期総会に報告し、審議される予定である。

### 名簿統一化WGメンバー

座長 稲積 佐門（I17 富山高専同窓会会長）  
七軒 彩香（国3 富山高専同窓会副会長兼事務局長）  
長浜 啓一（M5 ほんごう会会長、富山高専同窓会理事）  
種部 元仁（E20 ほんごう会常任理事）  
藤田 正良（E9 ほんごう会常任理事）  
玉川 宏（E機関32 北斗会会長、富山高専同窓会理事）  
井上 誠（K金属11 富山高専同窓会理事）  
佐瀬 直樹（富山高等専門学校副校長）  
佐藤 圭祐（富山高等専門学校電気制御システム工学科教授）  
金山 恵美（富山高等専門学校若潮丸船長 特任教授）  
水谷淳之介（E機関35 富山高専同窓会理事）

## 編集後記

同窓会報Vol.3をお届けします。本校では、令和2年4月に新入生を迎えた直後にリモート授業を実施して対応してきたコロナ禍も、ようやく終息の兆しが見えてきました。この間、同窓会活動もリモートで総会や理事会、役員間の打合せが行われてきました。特に本校の3同窓会（富山高専同窓会、ほんごう会、北斗会）の名簿を一本化して管理するためのワーキングでの検討は、リモート会議により容易に東京などに拠点を持つ複数の名簿管理会社と質疑応答を行うことが出来ました。リモート会議の急速な普及は言わばコロナ禍の副産物ではないかと思えます。悪いことばかりではなく、良いこともあるのだなとつくづく実感しました。

両高専が統合し、同窓会名簿を一本化して運用することで、名簿がさらに有意義に活用されることを期待したいものです。同窓会会員相互の交流の輪が広がり、活性化することを願ってやみません。

ちなみに、私は商船高専機関学科の35期生ですが、これまで北斗会では「E35」と表記されていました。しかし、工業高専の電気工学科の学科略称も「E」であるため、両方が混同しないように設置が新しい学科の略称の方を優先することとし、設置が25年古い商船高専の機関学科は「E機関」と表記することになりました。少し長い学科略称(?)なので、慣れるまで時間がかかりそうです。

E機関35 水谷淳之介 記